

東京白楊だより

白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校 函館中部高等学校

<http://www.h6.dion.ne.jp/~kanchu/>



写真提供：67期 吉岡直道氏（函館在住・吉岡写真館）

支部長ご挨拶



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

安田 康次

(67期 昭和40年卒)

皆様方におかれましては、その後、お変わりなくお過ごしのことと存じあげます。

平素は同窓会の発展にご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は東日本大震災及び福島原発事故があり、各種行事日程もその影響を受けましたが、発生から1年半以上たつ今日に至っても、いまだ完全復興にはほど遠い状況であります。同窓の皆様も色々な形で支援されている事と思いますが、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

今年度の東京支部親睦大会は82期（S55年卒）の方が幹事期となり、早くから準備を進めてまいりました。今年度は新宿「京王プラザホテル」で9月30日（日）に、昨年より1ヶ月早い開催となりました。イベントでは久しぶりに講演会を開催、65期・渡辺憲司氏（立教新座中学・高等学校校長）をお願いいたしました。素晴らしいお話を聞く事が出来ると楽しみにしております。

多くの方のご出席を心よりお待ち申し上げます。

東京支部の多くの課題は以前より申し上げておりますが、年会費納入者の長期減少の改善、親睦大会の参加者拡大、安定した東京支部事務所設立等、難しい問題でなかなか解決への道筋が出来ておりませんが、これからも評議員、理事のご協力を得ながら努力してまいります。

今年度も東京支部としては、大先輩から最近の卒業生まで幅広く集える、活力にあふれた魅力ある同窓会を目指し、ホームページを充実して環境を整備し、支部の活動をPRしていきたいと思っております。

渉外活動にも例年と同様、母校・本部・他支部及び他校同窓会との交流を積極的にを行い、同窓会活性化に向けた意見交換、情報収集、道南出身者の連携強化および、郷土支援を継続的に進めてまいります。

尚、事務所に関しては引き続き探しております。お心ある方のご協力、情報などがございましたら、ご一報いただけたらと思っております。

最後になりますが、これからも若い方の参加者が少しでも多くなる様な同窓会、そしてご年配の方々も楽しめる同窓会を目指し、伝統ある白楊ヶ丘同窓会を盛り上げていける様、役員一同、なお一層発展に努力してまいりますので、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

「オンリーワンになれ」

北海道函館中部高等学校
校長 小林 雄司



最近の日本の様子を見ていると発進力が弱く力強いリーダー不在を感じざるを得ない。リーダーを養成することをこの日本は避けてきたのではない。真剣にこのことを考えてみる必要がある。一時期オンリーワンなる言葉が歌の世界で流行ったが、いつも違和感を持っていた。なぜならその道でナンバーワンを目指してこそ本当のオンリーワンになると思うからである。



ノーベル化学賞受賞特別講演で
来校された根岸 英一教授

だから、中部の生徒には将来のリーダーとして中途半端なオンリーワンではなく本当のオンリーワンになることを期待したい。そのために文武両道の今をしっかりと元気に過ごし、本校伝統の白楊魂を受け継いでほしいと願っている。その点で最近の生徒が頑張っているところを紹介

しておきたい。
最後に白楊ヶ丘同窓会東京支部のますますのご発展と後輩達の支援をお願いし、3年にわたってのお礼と致します。

① 百年続く伝統行事



右の写真は、明治45年に創部した水泳部の五稜郭公園の堀で行われていた練習風景である。現在ある校内水泳大会のルーツと考えられます。生徒は、この写真を見て当時の函中生の逞しさに感動していました。現在の校内水泳大会（8月実施）は、男女それぞれクラス対抗で実施しています。大会では全国大会常連の水泳部員が大活躍しました。ちなみに本校水泳部は大正14年に全国大会総合優勝をしています。



100年続く伝統
函中柔道大会
大正初期の写真も

校内柔道大会（11月実施）はクラスで選出された5人の男子によって行われます。6年前に、柔道部復活の機運をつくったり、クラスの結束

② 文化系部活動の活躍



全日本中学校Webコンテスト
両中部高が金賞
アニメで分かりやすく
千原の北極星探検隊の物語

力を高めています。放課後なのに多くの生徒がクラスメートを激励していました。

本校は、文化系部活動では放送部が全国大会常連校として活躍していますが、昨年度後半、パソコン研究部と囲碁将棋部が全国大会に出場しました。パソコン研究部は全国295チームが参加して、3度の審査を経て、本校を含む11チームが東京で行われるフラインガル選考会に臨みました。

金賞を受賞した「光と色の不思議な世界」「なぜ空が青いのか」の専門的な物理分野の作品を専門家の前でプレゼンテーションを行うことができました。生徒にとっては一刻千金の一時となったようです。さらに、学校インターネットにアップして、英訳サイトを併設するなど新しい取り組みに挑戦しています。
囲碁将棋部は、高文連全道大会将棋新人大会で全国大会出場権を得ま

した。男女そろっての出場は快挙です。蛭田君と土橋さんは全国大会で「強豪相手に多くを学びたい」と挑戦者の気持ちを忘れず挑んでいます。



全国将棋初の男女出場へ
強豪に学びたい

③ 医進類型指定校の成果

北海道教育委員会は平成20年度に、地域を担う人材育成のため、札幌を除く道内の各地の伝統校9校を医進類型指定校としました。

本校では三年生から理系科目の特化した「医進類型クラス」を設置し、医学部理科3科目に対応したカリキュラムを組んだり、英数理の科目で少人数授業を実施しています。さらに、一年時から道内医学部教授を招いて「メディカル講座」を設け医学部への進学意欲の向上を図ったり、医療機関を見学する「地域医療体験活動」を実施して地域医療の実情を学んでいます。

学部医学科に合格していましたが、平成23年度は現役で3名が合格しました。この結果は、本校だけでなく将来的に函館の学力の底上げにつながるものと思われま



朝妻さん(国中部員)初優勝
道内外15人が熱演

④ 土方歳三コンテスト優勝

戊辰戦争最後の戦いとなった箱館戦争をしのぶ「五稜郭祭」において、土方歳三コンテストが行われ、本校三年生朝妻佑美さんが優勝しました。朝妻さんは、中学一年から出場し、新選組の土方歳三について勉強し当日は胸まであった長い髪をばつさりと切って臨みました。朝妻さんは土方がどんな思いで最後を迎えたのか1年間考え、迫力ある殺陣を披露して見事優勝しました。

⑤ 防災訓練(地震・津波)



津波だ! 中部高に避難!
900人 迅速に行動



医学部高橋健児図鑑
先鞭の声、支えに

その結果、現浪で毎年1〜2名医



白楊ヶ丘同窓会 東京支部 第35回親睦大会報告



勢ぞろいした幹事の81期生

「函館へ帰ろう！」を
テーマに81期が担当



東京ガーデンパレス



受付はこちらです！

第35回の東京支部親睦大会は、平成23年10月29日（土）東京ガーデンパレスにおいて、81期の担当で開催されました。

テーマは「函館へ帰ろう！」。我々も50歳を超え、郷愁を強く感じるようになってきたことに加え、「函中生の土台」は、函館の歴史、文化、風土抜きに語ることはできない...と思ったからです。また、80代から20代までの同窓生が、一つにまとまれるテーマでもあるし、故郷の函館の街に、少しでも恩返しをしたいという気持ちもありました。

43期から112期までが参加

大会当日は、天候にも恵まれて、200名余りが参加し、81期の松永久と橋本祐子の司会で、午後2時に開会しました。

最初に、67期・安田康次東京支

部長が「本日は母校の校長先生をはじめ、同窓会各支部の役員の皆様さん、43期から112期までの卒業生にご出席いただき、本当にありがとうございます。今回は81期が幹事となり、昨年から頑張つて『函館へ帰ろう！』をテーマに、いろいろ企画しておりますので、ぜひ楽しんでください。今年は東日本大震災があり、同窓生の中にも亡くなられた方がいらつしやると聞いております。復興もまだこれからですが、一日も早い復興を願つて挨拶に代えさせていただきます」と挨拶をしました。



支部長挨拶



多くの人が集まりました！

続いて52期から上の旧制函館中学校の同窓生に登壇いただき、同窓会歌（旧制函館中学校校歌）を、出席の同窓生全員で斉唱しました。指揮は105期の小林秀輝氏、ピアノ伴奏は78期の島津路郎氏です。



まずは、同窓会歌斉唱！

次に、来賓15名の紹介があり、代表して函館中部高等学校校長の小林雄司先生から「生徒たちは落ち着いて勉学に励んでいます。今年には理系の成績がとても良いので、成果を楽しみにしています。部活も中部の伝統である文武両道に則



校長先生挨拶

り、7時間授業を週3日やって練習時間がなかなかとれない中でも頑張っており、野球、サッカーをはじめ多くの部が全道大会に出場しました。男子弓道は全国6位、放送部は創作テレビドラマ部門で全国2位となりました。テレビドラマはNHKでも放映されました。校舎の屋上からの夜景の撮り方が特に素晴らしいと評価されました。部活も勉強も優れた成果をあげている母校が、いつまでも道南の雄として頑張っていけるよう、これからも応援をお願いします」との挨拶がありました。



かんぱーい！45期 田沼氏

そして、乾杯の音頭は、43期・神山茂郎氏の推薦により、45期・田沼修二氏にとっていただきました。「私のクラスメイトは250名いましたが、まだ70余名が健在です。同窓会は人生の節目であり、それを頼みにして毎日の生活を頑張っています。来年は米寿の祝杯を70人の同志と共に迎えたいと思っています。函中のますますの発展を

願って、乾杯！
こうして賑やかな歓談となりました。



会場の様子

ふるさとの訛り懐かしき
……お店紹介

宴もたけなわ、いよいよアトラクションの時間です。まずパート1では「懐かしの函館」と題して、函館駅舎や、母校の変遷などの映



81期オススメのお店紹介

像を、約70年前の現在の写真を使って流しました。我妻先生、駒井先生のビデオメッセージが登場した場面では、多くの出席者から拍手が上がりました。

パート2では、81期生オススメの商店20店舗を、動画で紹介しました。特に反響が大きかったのが、弁慶力餅（松風町）のべこ餅と、甘太郎（駅前）のおやきでした。

何十年も函館で店を続けている店主たちが懐かしい函館弁で「函館中部高校卒業の皆様、ご来店お待ちしております。函館に帰ろう！」と言うのを聞き、心が和んだ方も多かったのではないのでしょうか。

終盤となり、翌年の幹事となる82期の皆さんが壇上で抱負を述べ、続いて110期・澤村立氏による「フレフレ函中！フレフレ函中！」のメールと指揮で、出席者全員が校歌を斉唱しました。



フレー！フレー！函中！



指揮にあわせて校歌斉唱

最後に、幹事役を務めた81期34名が登壇し、代表して俵晶子が挨拶をしました。

「私たちの期が1979年に卒業してから32年になりますが、これまで親睦大会には参加したことがない人がほとんどで、幹事役を担うのはとても不安でした。でも、忙しい仕事を抱えながらも、みんな一生懸命にやってくれました。



担当期の81期生

司会に奮闘の
81期の二人



打ち合わせを重ねるうち、あつと
いう間に時を越え、気が付けば高
校時代の呼び方に戻っていました
おかげで、今度は同期で大人の修
学旅行をやるとういう話も出たく
らい仲良くなりました。幹事役は、
同期が旧交を温める格好の機会に
なるので、後輩の皆さんも面倒が
らずに、むしろ逆にラッキーと思
ってやると思います」・・・
・そして、中村秀治の三本締めで
閉会となりました。

(81期/高橋範夫)

会場スナップ集

大会の写真撮影は、会報写真班及び大会担当期など、
たくさんの方々の協力によるものです。会員の皆様
に第36回大会の写真の投稿をお願いします。



「函館へ帰ろう！」 メイキングストーリー



去年のあの親睦大会から先立つこと1年
の頃、「来年は81期が当番期だ」というこ
とで、2〜3ヶ月に1度ほどのペースで、
東京在住の同期生を中心に飲み会を兼ねた
打ち合わせの会合を開くうち、少しずつ参
加者が増えていきました。

さらに、同期の一人が作ってくれた81期
のメーリングリストで、情報のやり取りを
するようになってからは、函館・札幌をは
じめ、全国の同期も巻き込んでいき、本番
が近づくにつれて、同期会活動が盛り上が
っていきました。

テーマを「函館へ帰ろう！」と決め、そ
の企画の一つとして、函館の商店や名物を
紹介することになり、推薦する商店への取
材の多くは、夏の帰省時に行いました。

ちょうど2011年の夏に、函館で81期
の同期会「ばいの会」があり、東京からも
多数参加し、在学当時の担任だった、我妻
先生・駒井先生のお元気な姿をビデオに収
めることができました。商店取材では、函
館在住の同期の協力にも大いに助けられま
した。

そして、あの大会から1年近く経った今
も、小ささまざまな飲み会を、しばしば開
いて楽しく付き合いを深めています。

この1年で、札幌・大阪・仙台などでも
小規模な同期会が開催され、交流が日本全
国に広がっています。

(81期/俵晶子)

第35回 親睦大会出席者一覧

平成23年10月29日(土)ホテル東京ガーデンパレス



来賓

北海道函館中部高等学校 校長
白楊ヶ丘同窓会 会長代行
白楊ヶ丘同窓会 幹事長
白楊ヶ丘同窓会関西支部 事務局
白楊ヶ丘同窓会札幌支部 幹事長
函館西高つづじヶ丘同窓会東京支部 会長
函館西高つづじヶ丘同窓会東京支部 総務

小林 雄司
石井 直樹
鎌田 佳勝
山川 泰宏
酒井 純
新谷 義克
堀内 洋子

函館東高等学校関東青雲同窓会 会長
函館東高等学校関東青雲同窓会 幹事長
東京函商同窓会 会長
東京函商同窓会 幹事長
函館工業高等学校同窓会関東支部 事務局長
函館工業高等学校同窓会関東支部 事務局員
函館ラ・サール東京同窓会 副会長
函館ラ・サール東京同窓会 副会長

新山 春一
檜森 兄元
汐谷 進
道下 佳拓
本間 和吉
大水 和彦
那須 良明
川原 光徳

43期・昭和16年卒 神山茂郎
45期・昭和18年卒 田沼修二
46期・昭和19年卒 渡辺保二
47期・昭和20年卒 堀田善和
51期・昭和23・24年卒 小野寺吉彦・三國比左男・三谷瑞穂
52期・昭和25年卒 小泉龍彦・長島康・福津達男
54期・昭和27年卒 遠藤宏・澤口幹男
55期・昭和28年卒 赤澤 高・阿部健・栗崎健一
56期・昭和29年卒 加藤正秋・津田恭一・内藤博
57期・昭和30年卒 鶴島克孝・櫻庭晃・武田有弘・吉田精吾・小竹嘉子(滝田)
58期・昭和31年卒 五十嵐克至・近藤好介・永野巖・広田洋吉・藤原正樹
59期・昭和32年卒 岡田正法・笠原 静雄・真船 昭
60期・昭和33年卒 飯田幸平・上平慶一・内藤尚・松村文俊・水江彰一
61期・昭和34年卒 相沢貞俊・金子公彦・菊池紀邦・橋本正夫・畑中万弘・松本允
62期・昭和35年卒 市丸大平・田村雅英
63期・昭和36年卒 小野武司・中村崇・吉川英機・依田洋次・石崎篤子・土橋道子(山本)
64期・昭和37年卒 徳田定勝
65期・昭和38年卒 荒井正治・小嶋正歳・山初省吾・渡辺千穂子(榊)
67期・昭和40年卒 岩間昌夫・加賀幸彦・相馬研二・花海吉夫・松田幹夫・宮川憲司・安田康次
68期・昭和41年卒 木戸正文・白崎淳一郎
69期・昭和42年卒 梅田五郎・奥野政博・佐藤一廣・瀬戸武一・高木隆・梅田やよい(上野)・松坂きみえ(柿沢)
71期・昭和44年卒 加納元雄・四日市ゆみ子(神谷)
72期・昭和45年卒 池田英一・小林繁治・谷口雅典・丹羽修・松本浩・村上誠一・村田秀樹・渡部敏雄・佐野 香苗(小岡)
73期・昭和46年卒 小栗卓司・戸来伸一・山田朗・大内祐子(佐賀)
74期・昭和47年卒 関昌弘
75期・昭和48年卒 祐川伊左久
76期・昭和49年卒 下國直人・白川正広・曾我正彦・高野勝弘
77期・昭和50年卒 相澤有一・小林広武・若生直

78期・昭和51年卒 垣坂清・島津路郎・下田真靖・長澤一徳・宮崎恒春・若山雅行・岡部あさ子(三浦)
79期・昭和52年卒 阿部洋一・高橋政章・樋口澄則・米田考・西田勢津子(畑野)・福島陽子(若生)
80期・昭和53年卒 井上明・片瀬裕己・齋藤聡・清水賢治・山口 淳・輪嶋薫・井上名美(萩野)・小林八千代(不京)
81期・昭和54年卒 伊藤典之・稲生剛・小笠原勇人・加島敏朗・今野恵雄・佐藤静人・佐藤公俊・佐藤千尋・澤田昭吾・高橋範夫・辻莊平・長井浩康・中村秀治・藤盛隆志・二口慎一郎・本田美晴・前田達見・松永久・米谷直人・石岡利美・大西美之(田上)・木田信子(千葉)・児玉恭子(白崎)・佐柳由佳(関口)・進藤聖(山岸)・高橋里香・高山雅子(田嶋)・俵晶子・利一裕子(小笠原)・橋本祐子(佐藤)・原野富美子(乾)・髭本由美子・常陸千尋(出町)・松本由美(小澤)・山本美穂(光里)
82期・昭和55年卒 石子博康・清水真・永倉千夏子
83期・昭和56年卒 上野俊広・坂内勇仁・山本宏・唐澤恵(伊藤)・田口志保(新沼)・中山美恵子(西村)・和多田麻美
84期・昭和57年卒 江原みちな(吉沢)
89期・昭和62年卒 大釜毅
92期・平成2年卒 神山博史・坪内君枝(門脇)・服部州恵(西澤)
94期・平成4年卒 山形リサ
96期・平成6年卒 今田光信・西澤展美
97期・平成7年卒 岩澤総一郎・大川憲太郎・桜田和彦・野村武史・松川文弥・藤原倫子(蝶野)
99期・平成9年卒 朝緑高太
103期・平成13年卒 繁里わか奈・田上温子
105期・平成15年卒 小林秀輝
107期・平成17年卒 下山玲
110期・平成20年卒 佐藤一樹・澤村立
112期・平成22年卒 小田桐隆浩・菅原瞭介・高橋卓人・寺地諒・三浦健太郎・金山里留



来賓の方々



43期～51期の皆さん



56期、57期の皆さん



58期、59期の皆さん



60期～61期の皆さん



62期～64期の皆さん



65期～67期の皆さん



68期、69期の皆さん



70期～72期の皆さん



78期の皆さん



79期～80期の皆さん



82期～89期の皆さん



90期～99期の皆さん



100期～113期の皆さん

随想

旅行記・ベルリンにて

第58期(昭和31年卒)

広田 洋吉

昨年6月ドイツのベルリンに旅行しました。ベルリンはドイツの首都で、人口340万人を超える政治の中心地であるだけでなく音楽、文学、思想などドイツ文化の原点があるといわれています。今回はプロイセン王国時代の史跡、ナチス支配下のユダヤ人関連施設、「壁」に代表される第二次世界大戦後の東西冷戦下の旧跡見学などを中心に9泊11日の観光旅行でした。

一タ、コンツェルトハウス(ペルリン)で開催されたコンサートを聴きました。2011年はハンガリー生まれでピアノの魔術師といわれたF・リスト生誕200年に当たり、現地でもこの希代のピアノリストの記念演奏会が開催されていました。プログラムはP・プーリツ・カペーレ)がD・バレンボイムを独奏者に迎えて、ピアノ協

奏曲第一番、第二番などでした。

私は演奏会当日、ベルリンで一番美しい広場とされているジャンダルメンマルクトでの散策を考えて早めに会場に向かいました。場内は満席で私の左隣は中年の女性でしたが、彼女の演奏前後の声援はかなり熱狂的なものでした。休憩時間に彼女と話をしたところ、博士号を持ちデンマークの化学会社に勤務しているとのことでした。彼女は以前からこの管弦楽団のファンであり、今回の記念演奏会を聴くために当日の勤務を休み、翌日コペンハーゲンへ帰るとのことでした。彼女によれば、この管弦楽団の「サウンド」は素晴らしく、恐らく世界でも5本の指に入るであろうとのことでした。会場では演奏者の熱演と聴衆の興奮が相俟って、拍手とブラヴオーの掛け声が延々と続きました。私たちは素晴らしい演奏会に満足して別れを告げました。

翌日、私は「知られざるベルリン」という市内観光ツアーに参加し、ナチス支配下でのユダヤ人隠れ家やユダヤ文献の焚書の跡などを見て回りました。ツアーの途中、市内中心街にあるフアスベンダー・ラウシュ(ヨーロッパ最大のチヨコレートショップ)の店頭で、私は前夜の演奏会で隣席にいた女性を見かけました。多分、彼女は土産物を物色していたのでしょうか。それにしてもこんな大都会で外国人同士が偶然に再会するとは！正に、事実は小説よりも奇なりでした。私たちはお互いに顔を見合わせ、再び別れの言葉を交わしました。「さようなら、お元気で。」



(ジャンダルメン広場から見たコンツェルトハウス・ベルリン)



長岡での山岳部同期会と思い出

第60期(昭和33年卒)

飯田 幸平

一、はじめに
我々昭和33年卒業時の函中山岳部同期は佐藤慎悟君、斎藤驍君、佐藤大君、水津秀夫君、滝藤稔君、星野武敏君、飯田幸平の7名でした。

平成23年6月9日(木)に、佐藤慎悟君(相模原市)、佐藤大君(長岡市)、水津君(東京都)、飯田(横浜市)が集まって、同年5月に亡くなった星野君を偲ぶ会を新宿「魚山匠」で開き、遺影を前にして献杯しました。そして、次回の予定を佐藤大君が在住の長岡市へ小旅行の同期会をすることに決めました。長岡は佐藤慎悟君が3年間の学生生活を過ごし、そこを拠点に登山に出掛けたそうです。また当時同期が中心になって函中山岳部OB会結成の準備をし、佐藤慎悟君は夏休み

山脈の主峰幌尻岳2052mを登頂しました。さらに、今年の5月に、武敏君の弟・謙蔵君から、星野君の家は長岡出身との話を偶然に聞き、小旅行予定の長岡と符合し吃驚しました。

二、長岡への小旅行
小旅行計画にあたり連絡のつく室蘭市在住の斎藤君に連絡しましたが、体調不良で参加できず、参加者は佐藤慎悟君、佐藤大君、水津君、筆者の4人になりました。
平成24年5月25日(金) 関東在住の3人を乗せた上越新幹線は長岡に11時16分に到着し、改札口で佐藤大君の歓迎を受けました。
長岡駅前には市役所の駅前移転を機に、広場の設置、駅周辺メイン通りの整備、アーケード建て替え等、シャッター通りが一新され、たいへん気持ちの良い街になっていました。
さっそく駅前の老舗の名物「へぎ蕎麦」で腹を満たした後、佐藤大君の車の案内で、市内悠久山公園にある、星野君の遠戚の長岡市の教育振興功労者、星野嘉保子さんの碑を訪ねました。
市内観光後、小千谷市の錦鯉の里にも立ち寄り、日本海に面した寺泊地域の旅館に到着しました。
目の前の海で採れた美味しい魚介類の料理に舌鼓を打ち、ここの

ある地酒をゆつくり交わしました。話は函中山岳部時代の話でした。二年生に進級した昭和31年の春、初めての自前計画「足を鍛える」に意気軒昂、恵山峠一周を計画。

汐首岬まで函バスに乗り、そこから海岸沿いを歩き始めたものの、恵山の寂しい瓦礫の麓道を横切ったあたりから夕暮れになりました。足がふらついて無口になった所で偶然トラックに便乗でき、目的地の尾札部に到着しました。佐藤慎悟君の函中卒令兄が尾札部の水産高校で先生をしていた関係でたいへんな歓迎を受けました。翌日は川汲まで徒歩後、函バスに乗り帰還しました。

これを機に同期一同の団結力が高まって、旧校舎の階段下の狭い部室で次々と山行計画を練り、恵山に出かけました。三森山と袴越し岳に藪漕ぎを強いられた縦走、四季を問わず行つた横津岳の登山、大千軒岳への遠征、駒が岳登山、仁山高原でのスキー合宿、東山の麓での冬期耐寒テント泊、函館山でザイルでの懸垂下りの練習等々、粗末な道具にもめげず、空腹を我慢してよく行つたものでした。

印象に残る登山の一つに三年生の冬の横津岳スキー登山があります。夕食時に、何とゲスト参加の野又肇君が、親父さんの許可を得ての気付け葉が入った大きな瓶を

出し皆に振る舞いました。理解のある親父さんはやはり違う、と皆感心しました。翌日横津岳頂上からの滑走は佐藤大君の独り舞台でした。皆こけながら降りてくるのを尻目に、彼は誰よりも大きな荷物を背負って果敢に滑り降り、皆喝采をしたものでした。ただシルも付けず苦しかった筈の登りの事は覚えていません。

そんな昔話で盛り上がったところで、函中山岳部歌「人皆、花に酔う時も残雪恋し山に入り、涙を流す山男、函館中部の山男」を高らかに歌い、我々の山岳部同期会・長岡の夜は更けていったのでした。

(部歌の原曲は九州九重連山の「坊がつる賛歌」で広島高等師範学校山岳部歌) 翌朝は、地元の魚市場に買い出しに出かけ、新鮮な魚介類をお土産に買いました。そして、佐藤大君に見送られ、愉快に過ぎた長岡を後にしました。

三、終わりに この同期会の言い出しつべの水津君と、地元でお世話になった佐藤大君は現在も空手の後輩指導を引き受け、佐藤慎悟君はテニスに汗を流し、斎藤君は北海道の大地の耕作に精を出し、筆者は還暦後の槍ヶ岳登山、山スキーに魅了されて夫々スポーツに、自然に親し

んで函中山岳部の延長をしていますが。昨年5月に亡くなった山仲間星野武敏君に、この文を捧げます。

水滴のような思い出に！

第63期(昭和36年卒) 戸村 文彦



函中を卒業して半世紀が経ってしまいましたが、高等学校の思い出は、小さな水滴のように、私の胸の中で、きらきらと輝いています。今年は数えて70歳になります。毎日の生活で、一滴の水が欲しい場面が若い時に比べて増えて来ました。散歩していても、夜中に起きても、ほんの一滴の水が飲みたくないと、水道に口を近づけ、一滴を飲み干します。そのおいしいことといったら、どう表現したらよいのか分かりません。そして、新鮮な気持ちになり、生き生きとなります。これと同様に、高校生時代の青春は水滴のように私の心を生きたきとさせます。水滴ひとつひとつの中に、クラスメートが、恩師が、理科室、体育館が、テニス

コートが映えています。少し大きめの水滴の中には文化祭、運動会が映っています。本当に不思議なことです。大学時代とは全く異なった印象を持ちます。頭の中で思い出すのでさえ、心に新鮮さをもたらすのに、同窓会でみなさんに会ったら、また、大変です。老人となった顔も、若き高校時代の顔に変身し、思い出のエピソードが絶え間なく口の中からほとばしります。びつくりするくらい、正確に覚えていきます。会終了後の帰り道も、思い出につつまれて暖かく家路につきます。

あと、何年生きるのかな？このごろ頭をかすめる疑問です。健康で過ごしたい。さつとこの世を去りたい。私と同年代の人と同じ気持ちだろうと思います。そういう中で生き続ける源は、時々参加する同窓会です。楽しい！元氣！もつとやろう！という生きがいを感じます。五、六十代とは一味違つた遠い思い出です。もう、がぶがぶ飲む必要はもうありません。ちょっとした一滴を飲みたくないので。高校時代は水滴のような思い出になっています。



63期午末の会東京支部 ザラ古希おろしの会

9月30日 午後7時10分～
連絡先 土橋(旧姓:山本)
080-1363-3884

子育ての参考にどうぞ

著書 **かしこい親には
かしこい子が育つ**

文芸社・2月新刊・A6(文庫)判
定価630円(税込み)

54期 昭和27年卒業
白楊ヶ丘同窓会(元)東京支部長 **杉田博子**



楽しい行事の多い志丸会

第67期(昭和40年卒)

中川 真

卒業して50年近く、正確に言う
と47年たちますが、我々志丸会は
今でも沢山の行事を毎年行つてい
ます。

その前に志丸会の組織を簡単に説
明すると、本部は函館、札幌と東
京にそれぞれ支部があります。テ
リトリーは、札幌が道南以外の北
海道全て、東京が北海道以外の全
て(海外を含む)となっておりま
す。

全体行事としては、5年に1回
同期の全員に声を掛けて行う全体
の集まりと、各支部が独自で行う
新年会、花見、暑気払い、忘年会、
単なる飲み会があります。他に会
員の誰かが企画する国内旅行(最
近は、地方に住む同期の人を訪ね
て数日の旅行を企画する)、海外
旅行(海外で活躍する同期を訪ね
旧交を温め、励ます会)、墓参り
ツアー(お盆に函館に墓参りに行
くことを主目的にし、行きや帰り
に東北の温泉地、北海道の観光地
を回る)などが行われています。
以下は過去に行った全体行事の
楽しい話と、東京支部で今年企画
している行事等を紹介します。



全体行事としての第1回目は、
1995年の函中創立100周年記念
志丸会で、2回目はこの100周年が
あつた年に「次は2000年に札
幌で」を合言葉に札幌支部が企画
しました。2泊3日で約60名が参
加「健・豊・美・楽」のデスカッ
ション及び発表会、2日目はそれ
ぞれのコースに分かれ、美術館見
学、小樽めぐりなど楽しく過ごし
ました。又この時に、志丸会のマ
ークを制定し(渡辺譲治君、デザイ
ン)、Tシャツの製作を行いました。
3回目は2006年秋の「還暦
志丸会」東京に56名参集、浅草の
老舗旅館で総会を行い2日目は屋
形船コース、ハトバスコース、お
台場コースなどに分かれ当時の東

京名所を見学しました。

4回目は2011年秋の「ふる
さと志丸会」ふるさと函館の申し
い魅力を訪ねる目的で開催されま
した。1日目はプリンスホテル渚
亭(同期の河内君経営)で函館市
観光課の講演、宴会ではお世話に
なつた物理の加藤先生の長いご挨拶、
志丸会会長の山崎君のとても
早口な挨拶などがありました。

宴会後、東京の松田君制作のD
VD「懐かしき高校時代」が映写
され喝采を浴びました。

2日目は新しく出来た五稜郭奉
行所、天然記念物の土偶など新名
所を見学し、夜は「ひろめ荘」に
宿泊、おいしい海の幸に舌鼓みを
うちました。この会は参加者約60
名でした。

そして5回目は2015年札幌
で行われる予定となつており楽し
みにしています。

東京支部における定期行事とし
て2010年までの新年会等は日
本橋でレストラン「マド」のオー
ナーシェフ同期の小笠原君が引退
するまで大変お世話になりました
が「マド」閉店のためここ1、2
年幹事さんは場所探しに苦労して
いるようです。今年上海から蔦
森君、金沢からロビンソン尚子さ
んなど遠来の客もあり25名以上の
盛会となり銀座の居酒屋で行いま
した。

春の花見は各自弁当、飲み物を

持つて新宿御苑に集合し満開の桜
のもと楽しく飲食するという単純
な会ですが、ここ数年アルコール
の持ち込みが厳しく、これも幹事
さんが頭を痛めているようです。

また新宿御苑の菊展示会に合わ
せ秋に開催、趣旨は花が桜から菊
に変わっただけで右と同じです。

国内、海外旅行としては、過去
上海に居る蔦森君を訪ねて3回、
アメリカに居る櫻田君を訪ね1回
国内では四国、山口に住む、同期
の西村さん、原君を訪ねた旅行、
金沢のロビンソンさんを訪ねた旅
行や、墓参りの途中に、震災にあ
つた仙台の澤田さん、菅井君を訪
ねたり色々な旅行が企画、実施さ
れました。

最後になりますが、同期の安田
康次君が白楊ヶ丘同窓会東京支部
の支部長を務めております。話を
聞くと支部長の仕事は忙しい様で
すが、彼の人の柄のとおり誠実にそ
の任務をこなしています。

同窓生の先輩、後輩の方々、い
ろいろな面での応援宜しくお願い
します。



一般社団法人 白崎労務安全メンタル管理センター
代表理事 白崎 淳一郎 (68期)

- 労務・安全衛生・メンタルヘルスケア・コーチング関係の調査研究・巡視
- 労務・安全衛生・メンタルヘルスケア・コーチングの講演・講義・研修
- 労務・安全衛生・メンタルヘルスケア・コーチングの相談・指導・援助
- 職長教育、安全衛生責任者講習、安全管理者選任時講習、各種特別教育、各種免許受験準備講習、各種安全衛生関係研修

〒343-0021 埼玉県越谷市大林 518 番 1
TEL・FAX 048-977-6210 Email: jshiro52@js5.so-net.ne.jp



株式会社宮川憲司建築事務所
Environmental Planning & Design
http://www.k-miyakawa-arch.co.jp



志丸会

東京支部

第67期 昭和40年卒業

「つながる」ということ

第79期(昭和52年卒)
本塚(武藤)敦子

愛知県に住んで25年、郷里函館からも、同窓の友人たちとも距離が開き、このまま高校時代の思い出も薄れてゆくのかなあ、などと思っていた3年前のこと。きっかけは友人からの一本の電話でした。「私たち、今度函中同窓会東京支部の幹事の年なんだけど、貴女出席できない?」

彼女の誘いに乗り、東京までドキドキしながら出かけてゆくと、久しぶりに会う懐かしい顔、顔。親睦大会も無事終わり、同期会に流れて積もる話に夢中になり、こんなに楽しいならまた来年も参加しようと思いに決めました。

同期会の連絡に便利だということで、インターネットの掲示板が設置され、同期生の情報も増え、それを利用して局地的同期会もあちこちで開催されるようになりました。

昨年10月の親睦大会の後には、一期先輩の経営する居酒屋「加賀廣」で盛り上がり(その後打ち合わせと称する飲み会が頻繁に行われているとの噂)今年の正月には函館で盛大な同期会(名前も「七草会」に決定!)も開催されました。

そういったイベントの詳細は、インターネット上に写真や動画で掲載されるので、遠くまで参加できない私のような者でもパソコンさえ開けば楽しむ事が出来ます。

最近ではFacebookを利用して、同期生の交流が活発になってきました。日本全国どころか海外からも参加があり、思い出はももちろん、近況や思うところ、何でも気軽に話が出来ると、何気なく話が出来ると、話した事さえ無い者同士が、まるで長年の親友のように会話が出来る不思議。函館中部高校という場所、同じ時間を共に過ごした、それが縁で今でもこうやって「つながって」いる仲間たち。大切にしたいと思えます。



函館へきて.....

第97期(平成7年卒)
松川 文弥

昨年4月より函館へ移住し、現在千代台で「数学塾」を行っております。

ります97期の松川です。今回寄稿のお話をいただき何を書こうか迷いましたが、函館の現状を、函中卒業生の先輩・後輩に、一市民としてお伝えしたいと思えます。

「地方の疲弊」という言葉がメディアで時々流れていますが、函館もその一つになっているようです。確かに毎年帰省した際は、シヤッター街が多く、活気が少なくなっているなと感じていましたが、現状はそれ以上です。実際に住んでわかったことが、道路の凹凸が多いこと、電柱が地下に埋まっていること、美味しいものは多いのにその宣伝がうまくいっていないこと、そして経済が内向きで弱いことです。人口も27・7万人で、

毎年減少し続けています。この5年間で約2万人減少しています。

これが函館の現状です。そこで、これを読んでる先輩・後輩方にお願ひです。帰省される回数を増やしてください。空き地や空き屋を持つている方は、それを安い価格で若者に譲つてあげてください。それが今できることだと思います。

また、塩辛、鮭、カニ、つぶなどとても美味しい、しかも東京の半額程度です。これを皆さんの知人に送つてあげてください。

もちろん函館はこのようなどころばかりではありません。子育ての環境は、東京に比べ物にならないくらい最高だと思えます。我が

家にも昨年長男が誕生し、毎日海を見ながら散歩しています。海あり、山あり、美味しい食べ物あり、ゆつくりとした雰囲気です。子育てでできることに、感謝です。さらに耳寄りな情報としては、全国うまいもの市が、定期的にデパートで開催され、並ばなくても美味しいものが買えます。美味しいケーキ屋さん、ステーキ屋さん、パン屋さんなども発見しました。どれも数は少ないですが、ゆつくりと食べることができ、スローライフという感じです。函館牛乳の牧場、白岱スカイライン、大沼、八雲、恵山、江差など、道南にも最近足を延ばして観光を楽しんでいます。

2015年には函館(実際は北斗市ですが)に新幹線がきます。そこに向けて、函館はこれから確実に進歩していく気がしています。皆さんも是非、その進歩を実感しにきてください。来函お待ちしています。そして来られた際には、千代台の数学塾にお立ちよりください。



株式会社イコー建設
一級建築士事務所

代表取締役 佐藤 一廣 (69期)

〒165-0033東京都中野区若宮1-28-1 野方会館2F
電話:03(3223)0168(代) FAX:03(3223)0658
mail:k-sato@f-rn.co.jp

よいよい会 (昭和41年卒業 第68期)

「しみじみと 物うち語る友もあれ 君のことなど語り出でなむ」 - 啄木 -

毎年1月と6月に例会やっています。
1月:第三土曜日、H25/1は 鎌倉グルメの予定
6月:第一 or 二土曜日
お問い合わせ
木戸正文:mkidodes@docomo.ne.jp
大河原綾子:pharmacist-ayako@docomo.ne.jp
白崎淳一郎、及能誠一

同期会だより



第45期翠楊会

田沼修二

米寿の同期会

昭和18年に函中を卒業した同期生は翠楊会と称し毎年集まって旧交を暖めている。全員が米寿を迎えた今年、東京支部の会は6月14日に開催した。

参加者は8名であったが、参加者の中で秋のピアノ発表会に備えるもの、ドライブを楽しむものなど意気盛んであった。そして、9月に函館で全国の会員に声を掛け、函館山頂のレストランで米寿の翠楊会の全国大会を開くことになっている。

第52期玄羊会

福津達男

玄羊会 盤寿の集い

我々は昭和19年入学より共有の人生を持ち続け、動乱期の苦しい時も、又楽しい時も一緒にすごしてきた掛け替えのない仲間である。6月12日、九段下のホテルグラン

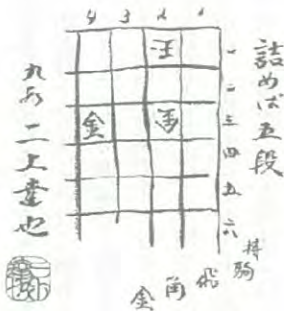
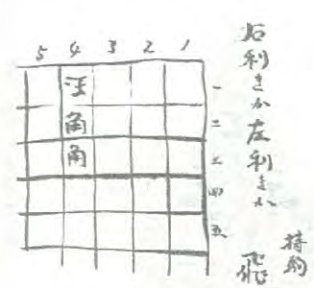


盤寿の集い 玄羊会



場には書道家、長谷川洋君の精進込めて書いた金色の「あつばれ八十一才」の横幕が異彩を放つ。鬼籍に入った友人133名の黙祷から始まり、二次会は最上階のラウンジで夜の10時頃迄、5時間に及んでも話がつきず、残りの人生を楽しく謳歌しようという事で散会した。
今回はなんといつてもDVDの作成が大変な仕事であり一年の月日を要した。
第一部は「仁徳の棋士・二上達也」17才で全道代表から将棋界に入り、大山さんの死闘、やがて會長になり、今日に至る迄の流れ。
第二部は「われら玄羊会」68年前の函中入学から新制高校への切り替え、5年毎の全国大会と記念誌作成、亡き友の映像と歌声が綴る感動の物語り。
30分の放映の後には、しばらく拍手が鳴りやまなかった。

二上詰将棋代表作



第68期よいよい会 木戸正文
毎年2回(1月と6月)首都圏在住者を中心として同期会を開催している。今年度1月例会(新年会)は「寄席と浅草グルメ」と銘打って、1月21日に開催した。笑う門には福来る「心の健康」と「体力」をすき焼き・釜飯で養った。
6月例会は「震災・東北支援」として会津若松で6月9日、10日に開催した。来年の大河ドラマ「八重の桜」(新島襄の妻、新島八重の物語)の舞台となることで、のぼりが各所ではためいていた。会津といえば会津武士のあるべき姿について「ならぬものはならぬものです」(什の掟、結び部分)の有名な一節があるが、会津では「会津つこ宣言」として再び唱えられているようだ。江戸時代にはこの様な躰け教育が各藩で行われていたのだろう。大切にしたい心得の一つだ。
さて浅草を8時の出発隊は喜多方まで足を延ばし(会津若松から電車で20分ほど)、お目当ての店で雨をものともせず(行列30分待ち)ラーメンを食し「満足であった」との事。
10時出発隊は七日町で下車、「鶴之江酒造」、「末廣酒造嘉永蔵」で利き酒、酒蔵見学を楽しみ、仕入れたお酒を抱え東山温泉のホテル



ルで桜井、佐藤(朝)、函館からの奥野君と合流。彼(奥野)は陸路自動二輪を駆つての参加、明日は奈良まで走るという。宴会では札幌の太田君からの十勝ワインをいただきながら、各人から近況報告。この秋に日本を脱出しタイに移住する旨(奥野)の話等々、侃々諤々「ジジ・ババ」パワー恐ろし。

また半年後に、皆の笑顔を見られることを祈りつつ中締めとした。翌日は会津武家屋敷、鶴ヶ城本丸観光を行い、帰途についた。

次回1月例会は「鎌倉グルメ」を予定していますので、今回都合のつかなかった方も是非ご参加いただければと思います。

なお案内は費用の関係でメールでお知らせしています。届いてい

ない方は木戸宛ご連絡いただけばと思います。

Eメール Icb10806@nifty.com

第71期

加納元雄

輝ける20年に向けて

正月に帰省して、毎年1月3日に開かれる函館での同期会に久しぶりに顔を出した。親から引継いだ農地を4倍以上に拡張した農業者、道南仏教界の重鎮になつている住職等々、函館の同期生は皆元氣だ。翌日昼のニュースを見ていたら、函館海産物取引所の大発会のステージの真ん中で手締めをしているのは、昨夜二次会から一緒に帰つた利波君ではないか。

「それに引き換えわが東京地区は」と思つてしまう。大部分がサラリーマンだからしょうがないのだが、60歳の定年を過ぎて第二、第三の人生に戸惑い、家庭の話題も「孫自慢」が中心になる。仕事でも家庭でも、責任が減つた安堵感と共に一抹の寂しさが、表情に滲み出ている。そういう屈託を抱えながら、それを秘かに確認するのが東京地区の同期会であつてもそれはそれで良いのではないか、そう割り切つて、同期会を続けることにする。

今年も例年同様、6月16日(土)、



場所もここ数年「定宿」にしていく横浜のみなとみらいにある三菱重工横浜、ピルのスカイラウンジで、71期の東京地区同期会大会を開催した。出席者は昨年より少し多い20人。いつもの出席者に加えて、佐藤昭治君や武石英紀君、小池勇一君、斉藤公良君等が、数年ぶりに顔を出してくれた。

話題は、定番の病氣・孫・親の介護の「三大テーマ」に終始するかと思いきや、家族と離れて一人北海道へ引越す準備で忙しい話、選挙に立候補するために毎日行脚に飛び回つている話、更には、3年後の日本脱出を目指している話等、これまでの日常から脱する話が多い。

そうなのだ。仕事や家庭は一段落着いたとは言え、体も頭も、まだ

20年くらいは自分の意のままに動いてくれそうなのがする。人生を楽しみ、味わうには十分な時間だ。単身乗り込んだ首都圏に僅かに残つていられるがらみも、捨てようと思えば造作もないことだ。そのように考えれば、残りの20年をどう自分のために生きるか、自由に考え、行動できるではないか。それこそが、今我々に問われていることかも知れない。

そんなことを考えながら、来年はスカイツリーに上つてから、今日出席できなかった若杉継道君の地元葛飾柴又で大会を開くことを約束して、暫しの別れを惜しんだ。

第72期さつき会

小林繁治

「毎年5月の第三土曜日を期して集まるべ。」

昨年、私たち72期の東京同期会にて、ちょうど還暦を迎えるのを機に集まった時に出された提案を、今年5月19日(土)、東京アルカディア市ヶ谷にて開催し、懐かしい顔ぶれで集まり、毎年定例開催とするスタートを切ることが出来ました。

東京と関東周辺在住者を中心とした72期の東京会合は、ほぼ毎年会合を重ねてきたところですが、昨年5月、「東京72期還暦記念同

期会」を浅草にて開催し、恩師広川駿治先生(化学)の元氣な参加と菊谷栄一先生(社会)、上野茂樹先生(英語)のビデオメッセージ放映、米澤三郎先生(国語)のレターメッセージを目玉に盛大に開催しましたが、これだけ集まつたこのエネルギーをここで終わらせるわけには行かないべき、これからそれぞれ還暦を過ぎて第二の人生を歩んで行くんだから1回は決まった日に集まつて、互いの元氣を分かちあおう、ということ

で、毎年決まった日に同期一同百歳を超えるまで集まるべ、と呼びかけをしました。

まずは、ともかく毎年の5月第三土曜日に集まることを決め、その後、会の名称を幹事一同迷出し、開催案内に際してアンケート投票しました。私たち72期は先輩各期の会合のような「名前」については名無しだったので、まずはここからということで、集まった名前「たちまち会」、「アレッキ会」など、函館の地を彷彿とさせるユニークな名称でしたが、「毎年5月に集まるから分かりやすいか」ということから「函中東京さつき会」に落ち着きました。

その第1回会合は、名幹事渡部敏雄くん(1組)と同氏の秘書嬢のサポートのもとに着々と準備が進められ、いよいよ5月19日、同窓会のメッカ「私学会館東京アル

カディア市ヶ谷」、二次会パブ「HUB」にて、北海道からの遠路遠征組9名を含め、延べ60名の参加を得て賑やかに開催されました。

昨年の58名を上回る参加に、一同驚きつつ、また、何と43年振りの初めての参加という懐かしい顔も交えて、賑やかな会合となった次第。

当日は、会合に先立ち、この週に銀座コダックフォトギャラリーで、時代の発電エネルギーとして期待される「風車」を全国、アジアを駆け巡り激写している丹羽修さん(9組)の個展「風車列島」に立ち寄り、旧交を温めてきた参加者も多いようでした。

まず一次会は、さすが同窓会のメツカ、というかバルテノンというか、アルカディアらしく、旭川東、室蘭栄高校という懐かしい名前の高校の同窓会も開かれている中、函中の単一期のみの会合にもかかわらずの堂々の賑やかさ、眼下に皇居の外濠を見下ろす夕暮れの会場にて、56名で午後5時幕を開けました。男女比38対18(ちなみに二次会は男性31、女性14)です。すから、たぶんほぼ見事に在校比率とシンメトリーです。

会は、先般亡くなった内田耕一(コッペ)くん(7組)を冒頭偲び開催。元気だった同期生が去るのはいつものながら寂しいことですが、

残る者はその元気を引き継いで行きたいものです。

当日の目玉は、幹事諸氏知恵を絞り買い出しツアーに奔走したくじ引き商品、浅草現地調達風の風呂敷や伊東屋オリジナルペンで、当選者はショートスピーチを行うという趣向。

近況あり、函館の野外劇活動の紹介あり、会場のあちこちで立食立ち飲み、座り組と各自昔日のごとく、悠々リタイヤもういいわ組、生涯現役まだやるぞ組、粘り腰まだまだ組、主婦(夫)目覚めおもしろいわ組、新趣味発掘これからいくぞ組、何だか分からないけど懐かしいや組、もう情性ですハイ組、ワイワイガヤガヤ入り乱れ時の経つのも忘れ、午後8時近くまであつという間に経過。

引き続き場所を移し、近くのパブまで幹事引率で移動。残念ながら一次会での帰路組に代わり途中参加のメンバーを含め、二次会ではさながらうたごえパブの「皆で歌おう」コーナー。

幹事の笹川浩史くん(3組)、はるばる北海道から参加の會田雅樹くん(10組)、加藤泰(10組)くんの熱唱熱演奏にしびれる懐かししの「竹田の子守唄」「時代」「イムジン河」「風」…と幹事万端用意の歌詞カードのもとに、全員懐かしき60年代の函館中部時代にタイムスリップし、市ヶ谷の夜

はとつぷりと更けゆき、やがてまた来年の再会を期して、記念すべき第1回の「函中東京つき会」を終えることができました。《何気なく寄れば愉しき同期会》は来年もまた続きます。

第74期 五十嵐信博

平成23年10月8日
ラピスタ函館ベイにて卒業40年会が開かれました。
海外在住者も含め、60人超の参加で盛り上がりました。
加藤正之先生(物理)、山本隆治先生(英語)も普通の元気なお姿を見せてくださいました。



第76期 白川正広

76期は恒例で、夏の暑気払いや新年会を開催しています。

今年の新年会は、1月27日の金曜日に開催され、仕事帰りの面々が集まりました。結果として、男子だけの会になってしまいました。真冬の季節とはいえ、全員の服装が黒一色。会話の半分は以上は、高校のときに誰と誰は付き合っていた、というような高校時代の話。皆、たいへん記憶力良く、その頃のことを熱く語ります。それはそれで盛り上がりましたが、やはり、共学校の良さである女子の参加を求める声が出たのは言うまでもありません。



サラリーマンの方は、あと3、4年で定年を迎えます。ぼちぼち、現役引退後にやってみたいことも話題にのぼりつつあります。全国

第71期東京地区同期会

紙面への広告募集!!

「東京白楊だより」第36号・2013年8月発行予定

お問い合わせ・申し込みは kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp

一級建築士事務所
沖崎建築設計事務所 沖崎 剛 第69期
〒182-0024 東京都調布市布田1-26-12-319
TEL: 042-488-3985 FAX: 042-488-3986
e-mail: okizaki.takeshi@nifty.com
<http://homepage3.nifty.com/okiz/>



火ばしら会
東京支部
(昭和42年卒業・69期)

の同期のメンバーが集まって、「修学旅行」をするのも面白いかもしれません。回数、そのような「将来」についての会話に向かいそうです。

第82期

永倉千夏子

今年はいよいよ親睦大会の幹事を担当。何年も前から分かってい

たことであり、にもかかわらず、多忙を理由にこれまでちっとも集まりをもたなかった私たち。さすがにこれではいかん、集まらなくては！というところで、まずは連絡を取るところからスタートしました。前年の親睦大会の案内に、翌年の幹事であること、メールアドレスを知らせてほしいことを書き添えて投函。例年よりは返信率の良かったことで少しだけ胸を撫で下ろし、幹事3人（清水、廣田、永倉）にアドレスを知らせてくれた人、個人的に連絡を取り合っていた人に加えて、一斉メールの連絡網を立ち上げました。

それでもなかなか集まれない腰の重い私たち：ようやく最初に集まったのは、3月1日！急に函館から東京に来ることになったと連絡のあった髭本君を囲んで、赤坂の中華料理店にこじんまりと大集合？！滅多に会えないので、中学

の同級生でラ・サール出身の人まで加えて、函館ネタで盛り上がりました。

2度目に集まったのは4月23日。同じ中華料理店で、10人の大集合（！）卒業以来という顔合わせも多く、その場にはいない人の消息等も含めて、近況、また、「昔は実はこうだったのだ」という在校中は知らなかった真実の開陳等で盛り上がりました。

そして3度目は、さる6月27日、御茶ノ水のイタリアンで。今回は、近況も一巡し（？）親睦大会の企画で活発な意見交換が行なわれました。その成果は9月30日の親睦大会当日に：：：？？？！あらわれま

すように！
がんばりますのでよろしくお願
いいたします。遠くからでも、もしよかつたら、この日だけでも、飲みに来てください！お待ちしております♪



ポプラ会ゴルフコンペご報告

毎回、少しずつではありますが、若手の皆さんのご参加を得ております。同窓会のコンペとしては、会員の皆様の居住エリアも広く、また、日程の選択も難しい問題ではありますが、大規模なイベントとしてはではなく、この程度の人数の会を定期的に開催することによって、それぞれ、ご都合のよろしい機会に、同期の方々をお誘いあわせの上、お気軽にご参加いただくような場を提供していきます。予定では、今年の秋に次回を計画したいと考えております。現在、60名の皆様にご案内を送っておりますが、ゴルフをされる皆さんはまだまだ大勢おられるものと思えます。参加ご希望の皆さまは、ぜひ、同窓会事務局までご連絡ください！

(76期 白川正広 記)

2011年度

2011年度のポプラ会ゴルフコンペは、震災の影響で、秋に開催を計画し、11月2日(火)千代田カントリークラブで開催されました。連休直前という日程設定や準備不足などもあり、参加者は8名で、成績は次のとおりでした。

優勝	67期	安田 康次氏
2位	57期	武田 有弘氏
3位	72期	松本 浩氏



2012年度

2012年度は昨年の経験を活かし、過去に開催した経験もある近場のコースとして、浦和ゴルフ倶楽部にて、つい先日、6月26日(火)に開催されました。梅雨時にもかかわらず晴天に恵まれ、4組15名の皆さまにご参加いただきました。成績は次のとおりでした。

優勝	72期	佐藤 禎子氏
2位	60期	水江 彰一氏
3位	60期	水津 秀夫氏



第76期東京地区同期会

(昭和49年卒業)

「あす76会」ゴルフコンペ(1月、4月、7月、10月)同期の皆さまのご参加をお待ちしています。

七草会

第79期 1977年卒業

2012年10月6日

函館にて同期会を開催します。
連絡先：樋口澄則
hg1021@mail.goo.ne.jp

四季を彩る至福の空間へ...



株式会社 計画機構一級建築士事務所
■ 建築設計・コンサルティング

alpha Conservatories Ltd.

■ ガーデンコンサルティング ■ 英国コンサバトリー設計、施工
株式会社 アルファコンサバトリーズ
創業1874年 AMDEGAコンサバトリー輸入総代理店、
B.D.G.コンサバトリー輸入代理店、建築設計・ガーデン設計

180-0022 東京都武蔵野市境1-22-9 ツインブレックスSA
TEL.(0422)55-7940(代表) FAX.(0422)55-7960
http://alpha-it.co.jp/ E-mail: info@alpha-it.co.jp

代表取締役 山田 朗(73期)

巴会ゴルフコンペご報告

函館巴会ゴルフコンペは、西高、東高、そして中部高3校のゴルフ対抗戦です。毎年1回開催されており、今回は第16回、当校の幹事で、4月10日、茨城県の「玉造ゴルフ倶楽部・捻木(ねじき)コース」で行われました。3校総勢32名、我が校からは10名の参加となりました。ルールは、新ペリア方式で、各校、女性1名を含む上位6名の順位番号のトータルポイントで競い合います。さて、成績は…

今回は、10位以内に3名の方が入ったものの、それぞれハンディキャップに恵まれず、残念ながら団体戦では及びませんでした。次回は、東高の幹事で来年の春に開催予定です。腕に自信のある方も、また、上位の成績は常連の皆さんにおまかせして他校との交流第一でご参加される方も次回をお楽しみに。多くの皆さまのご参加を歓迎いたします！

(76期 白川正広 記)

西 高 (50点、優勝)

東 高 (59点、2位)

中部高 (68点、3位)

個人成績では、83期坂内勇仁氏がベストスコアでした。



震災に関する報告 第68期 木戸正文

昨年、仙台市在住の石塚和之さんに東京支部同窓会の案内を差し上げたところ、奥様から震災で亡くなられたとの連絡がありました。東京在住の同期一同からお香典を差し上げたところお礼状が送られてきましたのでご報告いたします。従業員を避難させた後、難に遭われたとの事です。

不慮の災害に遭遇されたとはいえ、素敵な奥様と子らに恵まれ幸せな家庭を作り上げられていたことが推察されます。ご冥福をお祈りします。

物故者 (敬称略)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

- ◆窪田 亮明 (30期・昭3年卒)
平成13年3月逝去
- ◆諸星 義夫 (30期・昭3年卒)
不明
- ◆石崎 静夫 (31期・昭4年卒)
平成23年5月13日逝去
- ◆吉村 栄治 (35期・昭8年卒)
平成22年10月8日逝去
- ◆西原林之助 (38期・昭11年卒)
平成22年逝去
- ◆椿田 和彦 (39期・昭12年卒)
平成23年4月17日逝去
- ◆富永 茂 (39期・昭12年卒)
平成22年9月21日逝去
- ◆萩野 保之助 (40期・昭13年卒)
平成20年11月逝去
- ◆八村 敏美 (40期・昭13年卒)
平成23年4月16日逝去
- ◆荒木 勇内 (42期・昭15年卒)
平成22年2月逝去
- ◆坂内 信造 (44期・昭17年卒)
平成22年1月18日逝去
- ◆三井 久堅 (44期・昭17年卒)
平成22年6月逝去
- ◆増田 勉 (47期・昭20年卒)
平成22年2月3日逝去
- ◆篠原 敦 (48期・昭21年卒)
平成21年1月30日逝去
- ◆石川 武徳 (51期・昭24年卒)
平成22年4月7日逝去
- ◆伊藤 正己 (51期・昭24年卒)
平成22年12月7日逝去
- ◆今井 辰一郎 (51期・昭24年卒)
平成24年1月26日逝去
- ◆大島 君平 (51期・昭24年卒)
平成23年3月31日逝去
- ◆近藤 充夫 (51期・昭24年卒)
平成24年7月11日逝去
- ◆澁谷(石母田) 堯 (51期・昭23年卒)
平成24年2月20日逝去
- ◆船山 昇 (51期・昭24年卒)
平成23年1月26日逝去
- ◆井上 秀夫 (54期・昭27年卒)
不明
- ◆甚野 慶右 (54期・昭27年卒)
不明
- ◆照井 貞夫 (54期・昭27年卒)
不明
- ◆富田 洋一 (54期・昭27年卒)
不明
- ◆鍋谷 七郎 (55期・昭28年卒)
平成22年7月26日逝去
- ◆渡辺 譲 (55期・昭28年卒)
平成21年9月22日逝去
- ◆小川 英夫 (58期・昭31年卒)
平成23年12月3日逝去
- ◆鈴内 克義 (58期・昭31年卒)
不明
- ◆手代木 暁司 (61期・昭34年卒)
平成23年5月逝去
- ◆松下 雄一 (61期・昭34年卒)
不明
- ◆徳田 定勝 (64期・昭37年卒)
平成24年4月24日逝去
- ◆山初 省吾 (65期・昭38年卒)
平成24年5月11日逝去
- ◆菅野 蓉子 (67期・昭40年卒)
平成24年1月11日逝去
- ◆中畑 博 (74期・昭47年卒)
不明
- ◆佐藤 雄咲 (74期・昭47年卒)
不明
- ◆庄子(平原) 正子 (76期・昭49年卒)
不明
- ◆福山 眞紀 (79期・昭52年卒)
平成22年1月逝去
- ◆竹尾(竹田) 泰子 (79期・昭52年卒)
平成23年11月12日逝去
- ◆鋤柄 久美子 (79期・昭52年卒)
平成24年3月21日逝去

※年会費払込票及び大会出欠葉書きにて、ご家族からお知らせのあった方です。

まだまだ続く “俺たちの旅” 続・これが青春だ！

72期東京同期会「東京さつき会」は

毎年 5月第3土曜日に開催いたします。久しぶりの参加者大歓迎！

来年は… 2013年5月18日(土) 17時より。

会場は今年と同じ「アルカディア市ヶ谷」です。

(広告協賛) 新宿御苑前 渡部総合法律事務所 電話03-3355-5415 (代) 72期東京幹事

会員短信

平成23年9月以降の会費の振替票と返信はがきのメッセージから



●風間 憲吉 (37期昭10年卒)

高齢のため足腰が弱くなり歩行困難に付き欠席いたします。通知を頂くと旧制ボプラ丘時代を想い出してなつかしんでおります。

●新庄 幸平 (40期昭13年卒)

90才の高齢の為、歩行困難でございますので欠席お許し下さいませ。長い間お知らせありがとうございます。会のご発展をお祈り致します。

●相馬 泰二 (40期昭13年卒)

今回でおたより終了させていただきました。長いき間ありがとうございます。

●太刀川良三 (40期昭13年卒)

卒寿を越えて早一年。物忘れの進む中、昔のことは益々鮮明になつて、敵に囲まれ撃つたり撃たれたり。一兵卒としての戦争3年、捕虜1年の青春時代。帰国して見れば東京も横浜も焼のが原。おまけに食べ物も無い。ドルやポンドの外貨獲得に昼も夜もなかつた。それがその後の20年足らずでオリンピックをやり、更に世界でトップクラスの経済大国に。老兵はいつて瞑すべし。

●今井 清 (40期昭13年卒)

御盛會を祈つて居ります。

東京白楊だより第34号を拝見。母校生の活躍ぶりに感心しております。親睦会には欠席しますが諸兄のご健勝を祈念いたします。

●日野 文磨 (44期昭17年卒)

足腰が弱くなり、遠出は控えております。皆様お元気に。盛會を祈ります。

●渡辺 丞二 (48期昭20年卒)

残念乍ら、体調不良のため欠席致します。御盛會を祈ります。

●漆崎 雄一 (53期昭26年卒)

本年4月相談役に退き、週2日3日出勤しています。土・日はイベント多忙で現場挨拶などの日々です。

●進藤 照子 (53期昭26年卒)

大会の成功をお祈り申し上げます。

●小島 一弘 (53期昭26年卒)

目下、健康にて地域ボラを行っております。当日は都合がつかないので欠席致します。ご盛會を祈念致します。

●馬越 道子 (53期昭26年卒)

仕事も介護も終わった今が、私の一番楽しい人生かも知れません。

●野呂 英司 (53期昭26年卒)

健康には気をつけて、元気にして居ります。

●高木 幸子 (55期昭28年卒)

今年も猛暑の中、会のお仕事を頑

張つてくださいます。感謝致しております。

●滝沢 滋子 (55期昭28年卒)

年輪的にこのくらい普通と思つていますが、歩くのが苦手になり、特に駅の階段を思うと気が引けます。どうぞ皆さんお元気で。

●森 康美 (55期昭28年卒)

会報に最近の函館の記事が何かほしいです。

●赤澤 高 (55期昭28年卒)

久しぶりに出席します。友人に会えるうち・元気なうちに顔を見たい。話したい。(函館のニッパチ会(10月4日)に出席後、特に感じました)

●栗崎 健一 (55期昭28年卒)

昔人生50年、今100年！今年喜寿(77才)を迎えました。余生を如何に過ごすか、それが問題！

●浅岡 勤 (56期昭29年卒)

老生も76才、後期高齢者となり体力、気力、知力もガクンと落ちていきます。56期東京支部の幹事も政権交代しまして、加藤正秋幹事長、塚本弘子会計長(以下♂4人♀4人)となりました。

56期も全員後期高齢者となり、運転免許の更新を断念する友も増えてきました。老生はもうしばらく事故を起こさないようにやります。

●加藤 正秋 (56期昭29年卒)

後輩の方々が企画する大会に期待しながら出席します。と共に母校の発展を願っております。

●塚本 弘子 (56期昭29年卒)

若い期の皆さんが中心に毎年同窓会が開かれる事、大変うれしく思っております。私達も50代初めにお手伝いしたことを思い出します。若いエネルギーをいただきました。ですが介護のため出席出来ません。

●南 卓夫 (56期昭29年卒)

東京白楊だより第34号送つていただきありがとうございます。元気にボランテアで動いております。

●藤本 一郎 (56期昭29年卒)

親睦大会、参加を予定しておりますが、私事と予定が重なり、残念ですが欠席します。同窓皆々様のご健勝を念じます。

●原口 久江 (56期昭29年卒)

39期・昭和12年卒の椿田和彦様、私の思い違いでなければ昔、音羽町でお父様が開院されて往診の時に人力車のような車に乗つて(おなかえの)おいで下さつたお医者様ではなかつたでしょうか。弟が病弱で往診していただいたのですが、私は松風町の京極通りに住んでました。

●名越 侑子 (57期昭30年卒)

支部退会したいと思つています。いつもありがとうございました。

●小竹 嘉子 (57期昭30年卒)

お世話さまです。皆様にお目にかかれるのが楽しみです！

●信太 延一 (57期昭30年卒)

郷愁をかりたてる同窓会報をいつもありがとうございます。役員・幹事諸氏に感謝。

●山本 哲也 (58期昭31年卒)

白楊だよりありがとうございます。皆様にお会いしたいと思いつつ年を重ねております。

●伊藤 光司 (59期昭32年卒)

東京白楊だより、ありがとうございます。第35回親睦大会出席できませんが、いつも東京支部の活動に感謝しております。

●岩崎 英子 (60期昭33年卒)

33年卒の出席者数が少ないですね。

●小林 勲 (60期昭33年卒)

久生十蘭、長谷川四兄弟等々、中にはなかなか面白き人材と縁がありますね。

●析澤 森二 (60期昭33年卒)

3・11で日立市も震度6強、津波の被害もあつたが、我家は高台で無事。10日間の断水生活にも耐え、元気です。

●村本 光彦 (61期昭34年卒)

引き続き同窓会の隆盛を願つていきます。

●正津 禎男 (61期昭34年卒)

暑い夏でしたが、何とか元気に過ごしております。

●沼 武良 (61期昭34年卒)

これからも一層の発展を祈念しております。

●石月 言成 (61期昭34年卒)

①スカイプの様子に興味を抱き、これは今後活用したい(私の場合は香港にいる子供家族とスカイプ利用している)②「東京白楊だより」をホームページで見ました。紙を不要とする会員には割引制度

如何ですか？

●古波蔵 純子（61期昭34年卒）
連石崎 篤子（63期昭36年卒）

函館中学 昭和4年卒（31期）
父・石崎静夫は明治、大正、昭和と生き、平成23年5月13日永眠いたしました。札幌に住む数人の同級生と月1回の食事を楽しく楽しみにしております。

●齊藤 俊子（64期昭37年卒）

幹事の方、いつもお世話様です。同期の方の出席が少ないようですが、そろそろ元気なうちに都合つきましたら出席しようかと考えています。

●上原 勝雄（66期昭39年卒）

大震災の被害は幸い軽微ですみました。

●中川 真（67期昭40年卒）

東京白楊だよりも年々内容が充実してきて、とても楽しみです。編集に携わって苦勞されている同窓生の方々に感謝いたします。

●木村 修司（68期昭41年卒）

東京白楊だよりをさまざまなことを出しながら読んでいます。

6月末、母の入院のため帰省しました。市電の通り、とくに松風町から松川町にかけて空地やシャッターを下ろした店が多く、なにやら寂しさを感じてしまいました。日本も函館も元気にしたいものです。

●三浦 章三郎（68期41年卒）

いつも懐かしい函中関連の情報を届けていただきありがとうございます。

ます。昭和22年生まれの団塊の世代も第二、第三の人生の転機が訪れる頃となつていますが、小生は相変わらず橋梁関連業務に就いています。最近はやインフラ整備の盛んなアセアン各国に出かけることが多くなつていきます。

●岩切 省三（69期昭42年卒）

白楊だよりを懐かしく楽しく拝読致しております。役員の方々のご苦勞が偲ばれ感謝です。

●大原 喜美雄（69期昭42年卒）

完全にリタイアした折には、親睦大会に是非参加させていただきませう。会報の編集もご苦勞様です。

●奥野 政博（69期昭42年卒）

相変わらず温泉、ドライブ、旅行を楽しんでいます。地域の高齢者と共にウォーキング同好会等の世話役もして楽しんでいきます。同窓会のHPもリニューアルして便利さを感じております。大会、今年も楽しみに参加させていただきます。

●近藤千寿子（69期昭42年卒）

いつもありがとうございます。楽しみに読んでおります。これからも宜しく！

●佐藤 一廣（69期昭42年卒）

まだ第一の人生を続けております。遠からず第二の人生に移行したいものです。まだまだ頑張ります。

●瀬戸 武一（69期昭42年卒）

8月に函館の同期会に参加し、ゴルフは広川先生とご一緒し、夜の

パーティーには、加藤先生、三村先生、梅田先生が参加され、大いに盛り上がりました。故郷はいいものですね。

●安井 精悟（69期昭42年卒）

会報34号に掲載の岩間先輩のサッカー部創部に関わる随想を、懐かしく読みました。創部時メンバーの集合写真も昔を思い出すよききっかけでした。

●荒井 正博（71期昭44年卒）

同じ関東にいて、親睦大会に一度も出席できずに心苦しく感じていきます。又、会報を見るにつけ、昔を懐かしく思い出し、同窓生の一人として恥ずかしくない人生を送ろうと考えて仕事に励んでいます。

●川村 哲雄（71期昭44年卒）

平成23年度の同期会を6月25日「三菱重工横浜ビル33Fスカイラウンジ」で開催しました。参加者は仙台（富谷町）から一次会参加の小泉光君、我々71期の3年8組の担任だった水江彰一先生（60期）に二次会から参加していただき、例年に比べて10名ほど少ない総勢20名で実施しました。

●殿谷 道子（71期昭44年卒）

いつも欠席ばかりでごめんなさい。この数年は、歌とコカリナで老人施設の慰問に忙しい毎日を送っております。

●中村 徳三（71期昭44年卒）

サッカー部でしたが、会報の34号で2012年に創部50周年になることを知りました。高3の年にメ

キシコ五輪で日本代表が銅メダルを取りましたが、この年に随想の寄稿者の岩間先輩から指導を受けたことを思い出します。「（大学の）先輩の釜本さんのフェイントは、こうだ」とか筋トレと柔軟体操をミックスしたサーキットトレーニングのハードだったことなど記憶に鮮明に残っています。大阪に在住していますが、2012年の東京支部の同窓会に参加したいと思えます。

●牧野 京子（71期昭44年卒）

母の介護のため、函館に単身戻り、数ヶ月に一度東京に帰る（2、3泊で）二重生活をしております。

●柳田 美知子（71期昭44年卒）

本年3月末に退職しました。とり合えずはゆつくりしたく、趣味やスポーツジム通いをしたり、旅行などを楽しんでおります。

●須貝 友紀子（72期昭45年卒）

いつも楽しい会報をありがとうございます。

●高田 恵子（73期昭46年卒）

5年間ほど介護中心の生活をしてまいりましたが、本年7月に母が亡くなり、これからの自分の生き方について思いを馳せる今日この頃です。

●関 昌弘（74期昭47年卒）

昨年、仕事でたまたまご一緒した大先輩から東京支部の存在を知らされました。10/29の親睦大会には出席させていただく予定です。

●高田 博行（75期昭48年卒）

盛会をお祈り申し上げます。2年

余り前より群馬で单身生活をしております。

●阿部 明夫（75期昭48年卒）

大問原発は対岸の出来事とは思えません。観光に大きく依存している函館にとつても大問題です。今回の東京白楊だよりの裏表紙、函館公園ですか？なつかしい。昔よく遠足で行きました。

●掛川 裕子（75期昭48年卒）

本当にこの写真のままなのですか？先日帰函したばかりなのに、また帰りたくなりました。

●久米 教子（75期昭48年卒）

幹事さん、本当にお世話様になります。高校時代なつかしく思い出しています。

●下河原 郁子（80期昭53年卒）

東京白楊だより第34号、楽しく拝読いたしました。ありがとうございます。

●常陸 千尋（81期昭54年卒）

第35回親睦大会の幹事期となり、同期と会う機会が増え、楽しく準備をすすめております。そんな機会に感謝しております。

●繁里 わかな（103期平13年卒）

皆様に大会でお会いできるのをとても楽しみにしています。

●中野 綾花（112期平22年卒）

H24年度評議会報告

平成23年度収支実績および 平成24年度予算(単位:円)

	23年度実績	24年度予算	
収入	年会費収入	1,887,000	2,000,000
	大会費収入	1,408,000	1,400,000
	寄付金収入	238,000	240,000
	会報広告収入	90,000	90,000
	その他	115	0
	合計	3,623,115	3,730,000
支出	大会関連費用	1,713,149	1,680,000
	会報関連費用	878,667	880,000
	諸会議費	262,005	280,000
	通信運搬費	271,049	300,000
	本部派遣費	188,020	200,000
	その他の運営費	334,968	370,000
	予備費		20,000
	合計	3,647,858	3,730,000
差引収支残	▲24,743	0	
次期繰越剰余金	4,926,538	4,926,538	

- 日時・平成24年4月24日(火)
- 場所・インテリジェントロビー・ルコ
- 出席者・31名

会議に先立ち、安田支部長より「平成23年度においては、東日本大震災があり各種行事日程もその影響を受けた。そのような社会環境の背景がありつつも、第35回親睦大会は幹事期の若手を中心となって取り組んできた。同窓会の更なる活性化、一層楽しく有意義に集える場となるよう努める所存であり、各位の一層のご支援とご協力をお願いする。」との挨拶があった。

- (1) 平成23年度事業報告
親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等
親睦大会は、81期の企画により「函館に帰ろう」を合言葉に実施された。
- (2) 平成23年度収支決算報告(木戸理事)
事業費、運営費の節減に努力したものの、年会費を始めとして収入が予算に対して未達となり、差引収支残は▲24,743円の赤字に終わった。
真船監事の監査報告を確認。
- (3) 平成24年度事業計画案
親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等
今年度親睦大会は82期の企画運営により、「京王プラザホテル」で第65期渡辺憲司氏の講演を予定。
- (4) 平成24年度収支予算案
昨年度の実績を参考に予算を編成。協賛広告による収入増、会報印刷費の削減を図りたいので、会員各位のご支援をお願いする。
- (5) 役員異動の件
曾我氏(76期)、松川氏(97期)、高波氏(98期)の理事、評議員の退任。
内藤氏(56期)の評議員退任、沖田氏(56期)の評議員就任が報告された。
引き続き、同会場において会費制で懇親会を実施した。

白楊ヶ丘同窓会東京支部 理事(書記担当) 村田秀樹

ご寄付御礼

昨年度は19名の方からご寄付を頂戴いたしました。ここにお名前を掲載し、御礼に代えさせていただきます。

- 36期昭9年卒 森本 良平
40期昭13年卒 今井 清 / 太刀川 良三
43期昭16年卒 内海 孝 / 神山 茂郎
44期昭17年卒 渡辺 紘一
45期昭18年卒 伊藤 貞男 / 大櫛 淳 / 川田 陽吉 / 田沼 修二 / 堀合 信秀
46期昭19年卒 岩沢 弥之助 / 小泉 道義 / 多和田 昭二 / 渡辺 保二
47期昭20年卒 桜井 正夫 / 堀田 善和
54期昭27年卒 杉田 博子
78期昭51年卒 島津 路郎

(敬称略 アイウエオ順)

誠に残念なことに、年会費の納入者数が年々減少しており、当支部の財政は、未だにひ弱な状態です。本年も引き続き皆様からのご寄付を募っております。お志のある方はご協力をお願い申し上げます。

取り扱い金融機関：郵便局
口座番号：00190-1-124291
白楊ヶ丘同窓会東京支部
郵便局備え付けの用紙、または会報に同封の払込票をご利用ください。

82期生、東京に集まろう！同期での二次会もお楽しみに！

一次会は9月30日16:00～京王プラザホテルへ♪

まずは同窓会で感動の再会♪

幹事役を果たしたあとは、同ホテル内の別の会場で

打ち上げを♪会って話せば昔の顔♪

気兼ねのいない仲間です♪

ばあ〜〜つといきましょう♪♪♪

第36回親睦大会幹事82期生の二次会案内

日時：平成24年9月30日(日) 親睦大会終了後
場所：同ホテル内の別室にて (会費3000円)

遠方よりお越しの方には、宿泊先のご紹介もいたします。
幹事：永倉 宿泊担当：石子(日通旅行)



テーマは

函館再発見!

白楊ヶ丘同窓会 東京支部 第36回親睦大会のご案内

2012年9月30日(日)

16:30開演(16:00受付開始)

京王プラザホテル南館5階 エミネンスホール

会費: 8000円 学生は無料 (ただし年会費3,000円納入者のみ適用・当日会場での納入可)

講演: 第65期同窓生 渡辺憲司氏 (立教新座中学校・高等学校校長)

「海を見よ - 函館…」 (仮題)

京王プラザホテル ご案内

〒160-8330 新宿区西新宿2-2-1
TEL. 03-3344-0111 (代表)
FAX. 03-3345-8269 (フロント)
エミネンスホール (南館5階)

・JR新宿駅 西口から徒歩5分
・都営大江戸線都庁前駅から徒歩1分
詳しくはホテルのHPをご確認下さい
<http://www.keioplaza.co.jp/>



写真: 73期 山田 朗

白楊ヶ丘同窓会東京支部、今年の親睦大会は、新宿の京王プラザホテルで行ないます。今年は、第65期同窓生で立教新座中学校・高等学校校長の渡辺憲司氏に「海を見よ - 函館…」と題して、「講演をお願いしております。氏は、昨年3月の東日本大震災のため卒業式を中止することになった生徒に対し、「時に海を見よ」を寄稿しましたが、同校HPに転載されたその感動的な内容が大手マスコミ等を通じて伝えられ広く共感を呼びました。このたびは、同氏がその思いを胸に抱ききつかけとなった原風景である函館と、同じ風景を胸に抱く私たちのためにお話しいただきます。

今年の親睦大会は、82期生(昭和55年卒)が幹事を担当しております。82期は、卒業後、集まりを持つ機会が少なかったのですが、この担当を機に、声を掛け合い、知恵を出し合せて、大会を成功させるべく、鋭意準備を進めております。

今年のテーマは、「函館再発見!」といたしました。懐かしいとは申しませんが、こちらに住んでおりますと、函館へは実家に帰るだけ、あるいはなかなかその機会ももてないなど、実際にはつながりも希薄になってしまいがちです。そこで、懇親会の中では、函館市役所の方より昨今の函館の様子、また、観光だけではなく市民も楽しめる街歩き等、他では聞けないスピーチをしていただくことにいたしました。函館が、単なる「思い出の地」でなく、もう一度住みたくなるような素敵な街であってほしいとも思います。専用のブースを設け、資料も多数取り揃えていただく予定です。ので、会食中もどうぞお気軽にお立ち寄りください。

このたび、同期で実行委員会の集まりをもつようになつて、在学中はお話する機会もなかった者同士も楽しく交流できるようになりました。こんな輪が少しでも広がっていつてくれれば幸いです。9月30日、お会いできるのを楽しみにしております!

(82期 永倉千夏子)

編集後記

印刷全体の見直しをしましよと提案した結果、言い出しつべの私が何かせざるを得なくなり友人のグラフィックデザイナーにお願いし、紙面の見直しかつ予算も減らせるようにと欲張って進めました。刷新するからにはせめて表紙だけでもカラーにと進めた結果、それが実現しました!

この陰には原稿集めから校正に至るまでの地道な編集の過程があり、今まで永年に渡りその作業を続けてきた梅田さん(69期)・朝緑君(99期)の努力のタマモノです。

私とは言え少しも会員の皆様楽しく読んで頂ければとデザイナーさんへ無理な注文することしか出来ませんでした。カラー化を機に皆様より一層のコミュニケーションを図ればと考えています。私は益々カラー元気を出さずしかないと。(山田朗 73期)

どんなことも、ものは試しだと思ひ、取り組むことにしています。しかしながら、なかなか、編集後記を書こうと意気込んで書けない。というわけで、今年になってから年間行事としてやっていると紹介するのは、お墓参り。以前は、年に1回通うかどうかだったのですが、ある方からお墓参りすれば腰痛は治ると言われ、お彼岸とお盆、お正月には必ずお参りすることにしています。鰯の頭も信心から、確かに、その後腰痛の悩みはなくなりました。(もちろんご先祖様を敬うことがメインであります)それに、定期的に函館に帰ることになるので、会報のほか、同窓会のホームページに使えるような情報を得ることもできそうです。ホームページ見てみてくださいね!函館の今をどんなアップしていきますよ!

何はともあれ、皆様のご協力により無事発行できたこと感謝いたします。
それでは、親睦大会でお会いしましょう!
(朝緑高太 99期)

東京白楊だより35号

- 発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
- 発行人 安田 康次 (67期)
- 編集責任者 梅田 やよい (69期)
- 発行日 平成24年8月4日

【東京事務所】
〒338-0012 さいたま市中央区大戸2-19-10
安田 康次 方
TEL・FAX 048-852-0988